

# 早期水稲「さきひかり」の施肥法と刈取適期

○押川純二・吉岡秀樹  
(宮崎県総合農業試験場)

## 【目的】

早期水稲の新品種「さきひかり」は、主力品種「コシヒカリ」に比べ食味が良く、短程で倒伏に強く多収であり、成熟期が10日程度遅いため、作期分散が図れる利点がある。一方、心白粒の発生がやや多く、外観品質が劣るといふ欠点がある。そこで、「さきひかり」の品種特性を生かす栽培法として、基肥の施用量、穂肥の施用時期、適期刈取時期を検討したので報告する。

## 【材料および方法】

2003年から2005年まで場内水田(細粒灰色低地土)で、「さきひかり」2葉期の稚苗を3月25日前後に移植し、表1に示す試験区構成で実施した。

表1 試験区の構成

[試験1] 基肥窒素施用量(2003年)			
区 No	品種	N施用量(kg/a)	
		基肥	穂肥
1	さきひかり	0.5	0.3
2	さきひかり	0.7	0.3
標3	コシヒカリ	0.5	0.3

[試験2] 穂肥施用時期(2004～2005年)

区 No	N施用量(kg/a)		穂肥施用時期 出穂前日数
	基肥	穂肥	
1	0.7	0.3	15日
標2	0.7	0.3	20日
3	0.7	0.3	25日

[試験3] 適期刈取時期(2004年)

出穂後31日, 34日, 38日, 40日, 42日  
成熟期: 出穂後38日

表2 穂肥施用時期の違いが収量構成要素及び品質, 食味に及ぼす影響(2004, 2005年)

区 No	基肥-穂肥 (Nkg/a) 出穂前日数	精玄米重 (kg/a)	同標準比 (%)	差玄米千粒重 (g)	米玄米水分 (%)	粗数 1穂 m <sup>2</sup> 当り (粒)	登熟歩合 (%)	心白歩合 (%)	外観品質	食味総合評価	食味総合評価
標2	0.7-0.3(-20)	52.8b	100	22.8	59.6	288	81.1	8b	C	0.00	
3	0.7-0.3(-25)	53.4b	101	22.8	57.5	289	80.5	10b	C	0.05	

表3 刈取時期の違いが収量構成要素及び品質, 食味に及ぼす影響(2004年)

区 No	刈取時期	精玄米重 (kg/a)	同標準比 (%)	差玄米千粒重 (g)	米玄米水分 (%)	登熟歩合 (%)	品質(%)		外観品質	食味総合評価	積算気温 (°C)
							青未熟	茶米			
1	成熟前7日	52.8a	92	22.2	14.0	81.9	25a	5a	C	0.11	860
2	" 4日	56.7a	99	22.7	13.3	82.4	7b	7a	B	0.04	940
標3	成熟期	57.2a	100	22.5	13.2	85.9	3c	10a	B	0.00	1060
4	成熟後2日	56.6a	99	22.4	14.2	85.2	2d	8a	B	-0.05	1110
5	" 4日	54.5a	95	22.3	14.6	86.2	1d	19b	C	-0.18*	1160

注) 精玄米重, 玄米千粒重は篩目1.8mm, 水分15% m<sup>2</sup>当り粗数: 31000粒  
品質検査方法: RS-2000X及び目視 外観品質: B-検査等級2等に該当 C-同3等  
異なるアルファベット間でLSD5%水準で有意 \* : 5%水準で有意

## 【結果および考察】

1) 「さきひかり」は、基肥窒素施用量0.7kg/aで穂数が多くなり千粒重が重いことから「コシヒカリ」の標肥(窒素施用量0.5kg/a)より30%程度増収するが、草丈・稈長は「コシヒカリ」標肥並で倒伏はみられなかった。

また、白米タンパク含量は「コシヒカリ」標肥より低く、多肥でも食味・品質の低下はみられなかった(データ省略)。

2) 「さきひかり」の穂肥施用時期は、出穂前20～25日が適当であった。出穂前15日では、籾数減により収量が10%程度減収し、心白粒が増加する傾向がみられた(表2)。

3) 「さきひかり」の刈取適期は、成熟期前4日～成熟期後2日(登熟期の積算気温: 940℃～1110℃)であった。

成熟期前7日では、青未熟米が25%と多く、品質が成熟期よりやや劣った。

成熟期後4日では、茶米が19%と多く、品質が成熟期よりやや劣った。また、食味が成熟期より5%水準で有意に劣った(表3)。

以上のことから、早期水稲「さきひかり」に適した施肥法は、基肥窒素施用量が0.7kg/a、穂肥窒素施用量が0.3kg/aで施用時期は出穂前20～25日であった。刈取適期は、成熟期前4日～成熟期後2日(登熟期の積算気温: 940℃～1110℃)であった。